

保育者特性インベントリィ (NTI) の標準化

心理学部 発達教育心理学科 藤村 和久

要旨: 本論文の目的は藤村 (2010、2011) により構成された保育者特性インベントリィの標準化を行うことである。さらに、個人の保育者特性プロフィールを診断するためのレーダーチャートを作成することである。そのために、全サンプル (N=1496) の7つの尺度得点のパーセンタイル値を求め、5段階の標準得点化をおこなった。個人の7つの尺度の標準点をレーダーチャートに描くことによって、個人の保育者特性プロフィールを視覚的に診断することが可能になった。

キーワード: 保育、保育者特性、適性、適正診断、質問紙法

【問題】

保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程等の資格科目の履修によって得られる資質は学力と技能であり、柳井 (1975) の職業適合性に関する特性の中の技量に当る。勿論これらは保育者としての重要な資質であることは論を待たないところであるが、実際の乳幼児の保育や教育の現場においては、これらの技量が十分身につけていることが前提であり、技量以外のパーソナリティ的資質が重要な課題である。浅見 (2000)、江田 (2007)、井澤・永房・星 (2007)、永房・井澤・岩切・星 (2008) などは保育士や幼稚園教諭の資質に関する研究結果を報告したものである。藤村 (2010) は、保育や幼児教育行動に現れると考えられる行動傾向を表す概念を測定する項目を用意し、項目分析を通じて最終的に7つの保育者特性尺度を作成した。信頼性を α 係数、同質性を ω 係数 (McDonald, 1999) によって確認し、いずれの尺度も高い信頼性と同質性を有していることが示された。さらに、確認的因子分析によって全項目の因子妥当性の検証をおこなった。また、藤村 (2011) は、構成された7つの保育者特性尺度がサンプル間の弁別可能性を有することを明らかにした。

本論文では、さらにサンプルを追加し、各尺度の得点分布から標準化を行ない、個人の尺度得点をレーダーチャートで表し、保育者特性における個人プロフィールの診断を可能ならしめることを目的とする。

【方法】

1. 被験者：某女子大学保育士・幼稚園教諭養成課程学生 373 名、現役保育者（現役の保育士、幼稚園教諭）306 名、育児中の母親 223 名、女子大学生 477 名、ケアマネージャ（女性）72 名、施設職員（女性）44 名、計 1496 名のデータを用いる。
2. 調査：学生については授業時間中に、現役保育者、施設職員については所属長を通じて配布、回収を行った。ケアマネージャについては、講習会の時間中に実施した。調査はいずれも無記名で行った。調査は、各項目の内容が「いつもの自分にどの程度あてはまるか」を5段階で回答を求めた。
3. 分析：各項目についての回答に「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」に0～4を配点した。ただし、逆転項目については4～0を配点した。各尺度は7項目から成り（藤村、2010）、尺度項目の合計点を求め、これを尺度得点とした。
 - (1) 全サンプル (1496 名) の尺度得点分布を確認する。
 - (2) 全サンプルの平均値、標準偏差および尺度間相関行列とサンプル別の平均値、標準偏差を算出する。
 - (3) 各尺度の弁別性を検討するため、一要因の分散分析を適用してサンプル間の平均値の差の検証

を行った。

- (4) 共分散構造分析多母集団パス解析による7尺度間の構造的関係の確認する(豊田, 1998, 2007)。
- (5) 尺度得点のパーセンタイルを各尺度毎に算出する。
- (6) 尺度得点の5段階での標準得点化を行なう。5段階標準得点の分布は、標準得点1が7%、2が24%、3が38%、4が24%、5が7%となるように変換する。
- (7) 個人の7つの尺度の特徴を視覚的にも捉える事ができるようにレーダーチャートを作成する。

【結果】

(1) 尺度得点の度数分布

全サンプルの尺度得点の分布は、図1-1～図1-7の通りである。

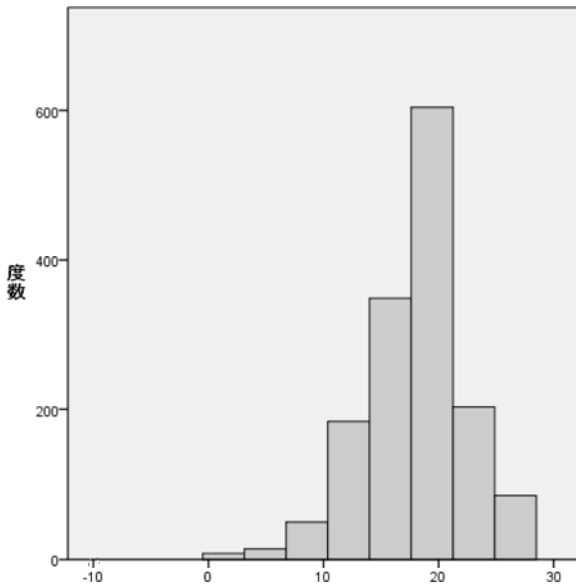


図1-1 愛他性尺度

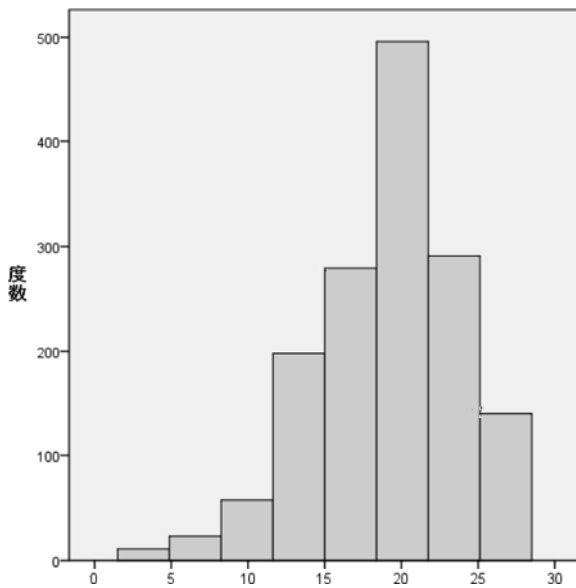


図1-2 共感性尺度

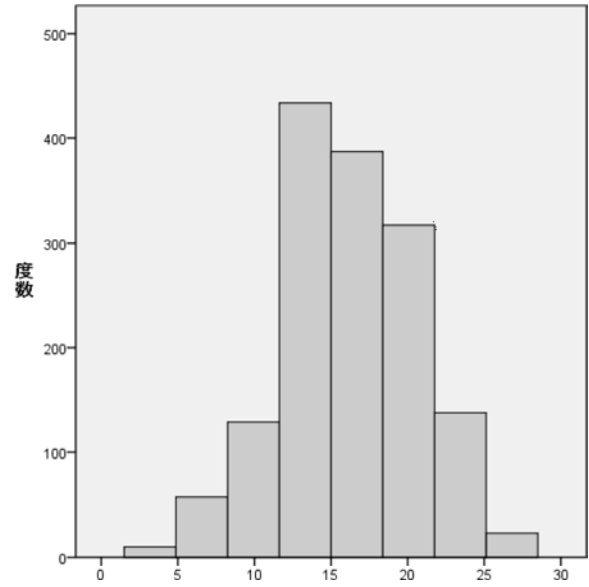


図1-3 論理的思考性尺度

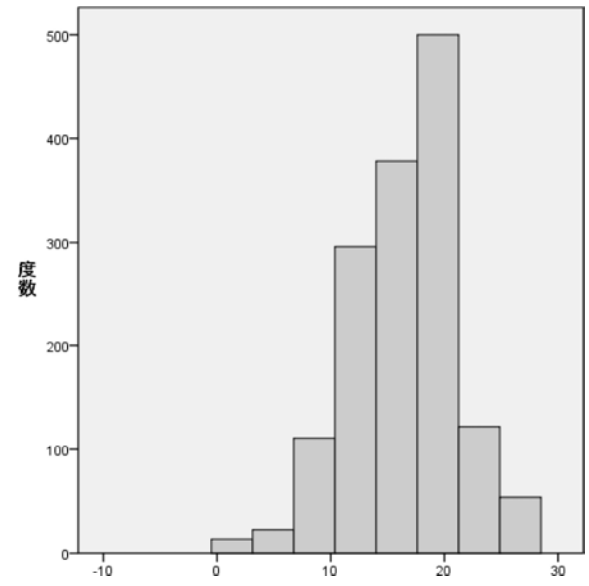


図1-4 気働き尺度

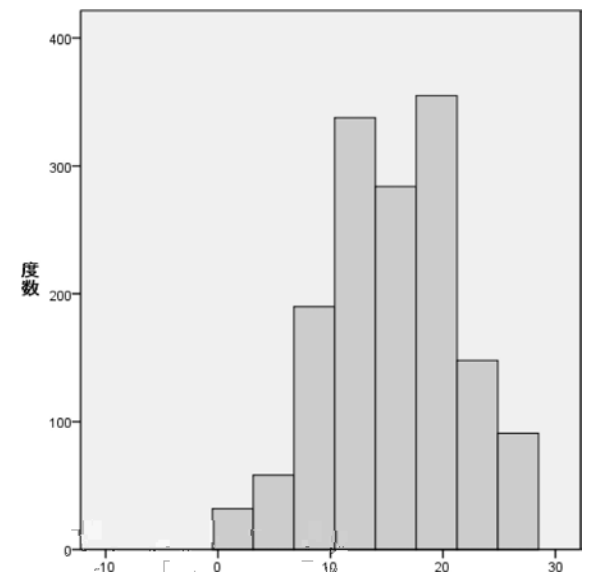


図1-5 社交性尺度

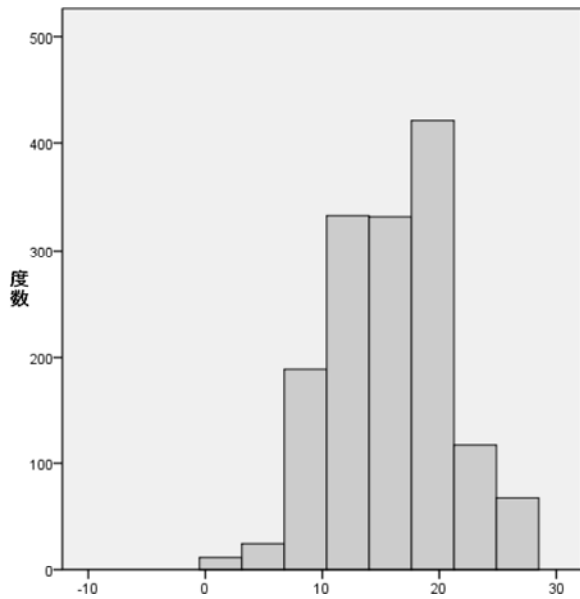


図 1-6 行動力尺度

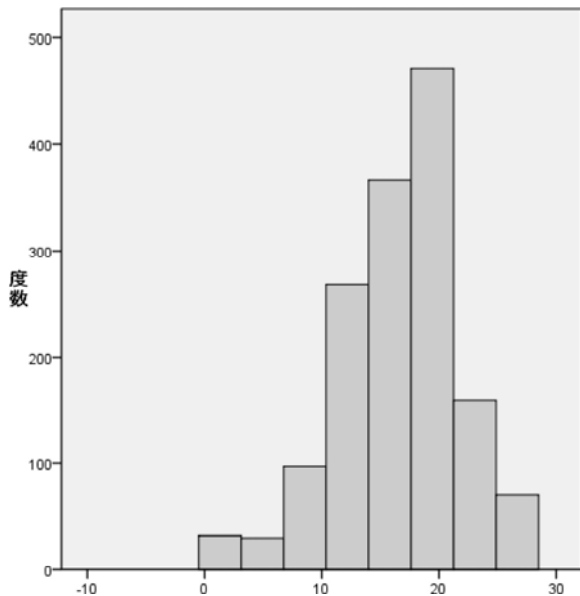


図 1-7 養育性尺度

(2) 全サンプルとサンプル別の平均値および標準偏差は表 1 のとおりである。

(3) 表 2-1～表 8-2 は、7つの尺度得点のサンプル間の異同を一要因分散分析結果の分散分析表と多重比較の結果である。多重比較表中、養成課程は養成課程学生、現役保育は現役保育者、育児母親は育児中の母親をそれぞれ表す。また、多重比較表の不等号記号はサンプルの組合せの左側が大きいかわりかを表す。たとえば、表 2-2 の左端のサンプル名「養成課程」と最上行の「育児母親」の組合せのセルが>>と表記されているが、養成課程学生の方が育児中の母親より平均値が高く、その差が1%水準で有意であることを示す。また、左端のサンプル名母親と最上行の現保の組合せのセルは<<と表記されている。母親の方が現役保育者より平均値が小さく、その差が1%水準で有意であることを示す。不等号記号1つ(<または>)は5%水準、2つ(<<または>>)は1%水準で有意であることを示す。空白は、そのサンプル間には有意差がないことを示す。

愛他性尺度

養成課程学生は育児中の母親、女子大学生よりも平均値が高く、その差は1%水準で有意である。現役保育者は育児中母親、女子学生よりも1%水準で有意に高い。また、施設職員より5%水準で有意である。育児母親は、養成課程学生、現役保育者、ケアマネージャよりも1%水準で有意に平均値が低い。また、女子学生は、養成課程学生、現役保育者とは1%水準、ケアマネージャとは5%水準で平均値が低い。

共感性尺度

養成課程学生と現役保育者とは有意差はなく、この2サンプルは育児母親、ケアマネージャ、施設職員、女子学生より、1%ないし5%水準で有意に高い平均

表 1 全サンプルとサンプル別平均値・標準偏差(各行の上段;平均値、下段;標準偏差)

	養成課程	現役保育者	育児母親	女子大生	ケアマネージャー	施設職員	全サンプル
愛他性	18.847	19.248	17.036	17.314	18.616	17.773	18.128
	3.816	3.363	3.793	5.156	3.700	3.397	4.285
共感性	20.051	20.650	18.224	18.474	18.808	18.295	19.286
	4.565	3.791	4.243	5.247	3.845	3.811	4.657
論理的思考性	16.051	16.523	15.919	16.358	17.452	15.523	16.279
	4.862	4.069	3.800	4.492	3.519	3.899	4.365
気働き	17.496	17.137	16.013	16.136	17.521	14.227	16.673
	4.223	3.933	4.444	5.207	4.122	4.527	4.606
社交性	16.842	17.007	16.229	16.606	17.342	14.614	15.711
	5.617	4.755	5.121	6.188	4.761	4.643	5.712
行動力	16.241	16.964	16.650	14.646	17.849	15.545	15.999
	5.067	4.432	4.664	5.420	4.385	3.689	5.039
養育性	18.185	19.507	16.919	13.675	17.082	16.909	16.737
	4.068	3.384	3.791	5.784	4.397	3.509	5.067

表 2-1 愛他性尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	1175.153	5	235.031	13.323	0.000
グループ内	26285.689	1490	17.641		
合計	27460.842	1495			

表 2-2 愛他性尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程			>>			>>
現役保育			>>		>	>>
育児母親	<<	<<		<<		
ケアマネジャー			>>			>
施設職員		<				
女子学生	<<	<<		<		

表 3-1 共感性尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	1413.748	5	282.750	13.575	0.000
グループ内	31035.803	1490	20.829		
合計	32449.551	1495			

表 3-2 共感性尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程			>>	>	>	>>
現役保育			>>	>>	>>	>>
育児母親	<<	<<				
ケアマネジャー	<	<<				
施設職員	<	<<				
女子学生	<<	<<				

値を持つ。

論理的思考性尺度

本尺度は他の尺度に比して特徴的である。分散分析表（表 4-1）では、F 値の生起確率は 0.069 で、分散分析モデルからは「論理的思考性尺度得点にサンプル属性の効果の違いがみられない」という統計的結論になる。確率が 0.069 であることから、念のため 2 サンプル間の比較を行った結果が表 4-2 である。養成課程学生、現役保育者、育児中の母親、施設職員、女子

学生間では互いに有意差はなく、これらの各サンプルはそれぞれケアマネージャーより有意に低いことを示す。また、2 サンプル間の比較でも現役保育者とケアマネージャー間には有意差は認められない。

気働き尺度

養成課程学生と現役保育者との間には有意差がなく、これら 2 サンプルは育児中の母親、施設職員、女子学生とは 1% 水準で有意に平均値が高い。育児中の母親は、養成課程学生、現役保育者、ケアマネージャーより

表 4-1 論理的思考性尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	195.087	5	39.017	2.054	0.069
グループ内	28303.677	1490	18.996		
合計	28498.764	1495			

表 4-2 論理的思考性尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程				<		
現役保育						
育児母親				<<		
ケアマネジャー	>		>>		>	>
施設職員				<		
女子学生				<		

有意に低く、施設職員より有意に高い。施設職員は養成課程学生、現役保育者、育児中の母親、ケアマネージャ、女子学生より有意に低い。また、女子学生は養成課程学生、現役保育者、ケアマネージャ、施設職員より有意に低い。

社交性尺度

養成課程学生、現役保育者、育児中の母親、ケアマネージャ間には有意差がない。女子学生は他の5つのサンプルより1%水準で有意に低い。施設職員は養成

課程学生、現役保育者、ケアマネージャより有意に低い。施設職員と女子学生間には有意差はみられない。

行動力尺度

養成課程学生、現役保育者、育児中の母親間には有意差がない。ケアマネージャは養成課程学生、施設職員より1%水準で有意に高い。女子学生は養成課程学生、現役保育者、育児中の母親、ケアマネージャより1%水準で有意に低い。

養育性尺度

表 5-1 気働き尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	868.632	5	173.726	8.386	0.000
グループ内	30868.528	1490	20.717		
合計	31737.160	1495			

表 5-2 気働き尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程			>>		>>	>>
現役保育			>>		>>	>>
育児母親	<<	<<		<	>	
ケアマネジャー			>		>>	>
施設職員	<<	<<	<	<<		<<
女子学生	<<	<<		<	<<	

表 6-1 社交性尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	3411.487	5	682.297	22.392	0.000
グループ内	45401.765	1490	30.471		
合計	48813.251	1495			

表 6-2 社交性尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程					>	>>
現役保育					>>	>>
育児母親						>>
ケアマネジャー					>>	>>
施設職員	<	<<		<<		
女子学生	<<	<<	<<	<<		

表 7-1 行動力尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	1534.018	5	306.804	12.540	0.000
グループ内	36452.981	1490	24.465		
合計	37986.999	1495			

表 7-2 行動力尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程					>	>>
現役保育					>>	>>
育児母親						>>
ケアマネジャー					>>	>>
施設職員	<	<<		<<		
女子学生	<<	<<	<<	<<		

現役保育者は養成課程学生、現役保育者、育児中の母親、ケアマネージャ、施設職員、女子学生に比して1%水準で高い。養成課程学生は育児中の母親、女子学生より有意に高いが、現役保育者より有意に低い。育児中の母親は女子学生より有意に高いが、養成課程

学生、現役保育者より有意に低い。

尺度間の構造的関係

表9は7つの保育特性尺度間の相関行列である。

図2は、藤村(2011)によって養育性の3要因モデルと称された7特性間の構造モデルである。

表8-1 養育性尺度の分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	7618.712	5	1523.742	73.735	0.000
グループ内	30791.046	1490	20.665		
合計	38409.759	1495			

表8-2 養育性尺度の多重比較表

	養成課程	現役保育	育児母親	ケアマネジャー	施設職員	女子学生
養成課程		<<	>>			>>
現役保育	>>		>>	>>	>>	>>
育児母親	<<	<<				>>
ケアマネジャー		<<				>>
施設職員		<<				>>
女子学生	<<	<<	<<	<<	<<	

表9 尺度間相関行列

	愛他性	共感性	論理的思考性	気働き	社交性	行動力	養育性
愛他性	1.000	0.639	0.242	0.434	0.351	0.303	0.549
共感性	0.639	1.000	0.261	0.442	0.306	0.281	0.485
論理的思考性	0.242	0.261	1.000	0.453	0.082	0.276	0.297
気働き	0.434	0.442	0.453	1.000	0.352	0.440	0.431
社交性	0.351	0.306	0.082	0.352	1.000	0.605	0.459
行動力	0.303	0.281	0.276	0.440	0.605	1.000	0.407
養育性	0.549	0.485	0.297	0.431	0.459	0.407	1.000

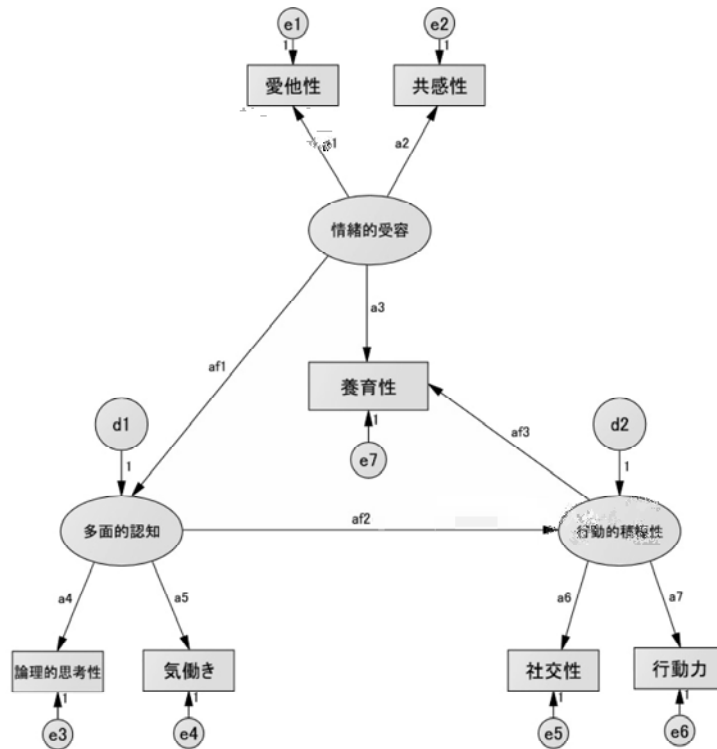


図2 保育特性尺度の構造的関係

表 10 保育特性 3 要因モデルの係数

	a1	a2	a3	a4	a5	a6	a7	af1	af2	af3
養成課程学生	0.78	0.69	0.62	0.60	0.81	0.67	0.81	0.59	0.68	0.26
現役保育者	0.75	0.77	0.60	0.59	0.80	0.67	0.88	0.75	0.64	0.26
育児母親	0.88	0.74	0.58	0.60	0.80	0.74	0.91	0.73	0.62	0.25
女子学生	0.82	0.79	0.54	0.45	0.91	0.81	0.73	0.64	0.51	0.27
ケアマネジャー	0.83	0.80	0.59	0.55	0.66	0.77	0.79	0.95	0.76	-0.07
施設職員	0.76	0.81	0.51	0.52	0.73	0.57	0.81	0.46	0.64	0.25

図 2 は、保育者特性インベントリによって測られる 7 つの特性間の相関関係（表 9）に内在する構造的関係をモデル図で表したものである。また、表 10 は共分散構造分析の多母集団パス解析（豊田、1988、2007）の分析結果の各サンプル別の係数を表にしたものである。このモデルの適合度は GFI=0.960、RMSEA=

0.039 で、十分な適合度が得られている。

尺度得点のパーセンタイル

表 11 は保育者特性 7 尺度得点の累積パーセンタイルを示したものである。

尺度得点の 5 段階標準得点化

表 11 の尺度得点のパーセンタイルをもとに、各尺

表 11 尺度得点のパーセンタイル

得点	愛他性	共感性	論理的 思考性	気働き	社交性	行動力	養育性
0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1	0.7
1	0.4	0.0	0.0	0.5	0.9	0.2	1.1
2	0.5	0.1	0.1	0.5	1.6	0.5	1.4
3	0.5	0.4	0.4	0.9	2.1	0.8	2.1
4	0.7	0.7	0.7	1.1	2.9	1.0	2.7
5	1.0	0.9	0.9	1.7	4.0	1.5	3.1
6	1.5	0.9	1.4	2.3	6.0	2.5	4.1
7	1.6	1.3	2.7	3.4	8.4	5.3	5.4
8	2.3	2.3	4.5	5.1	11.4	8.4	6.8
9	3.7	3.4	6.3	7.2	14.5	11.7	8.6
10	4.7	4.8	9.4	9.8	18.7	15.1	10.6
11	6.8	6.1	13.2	12.4	23.5	19.1	13.4
12	8.8	7.8	18.6	16.4	29.1	23.8	16.6
13	11.8	9.8	25.3	21.2	34.8	30.4	21.5
14	17.0	14.2	33.6	29.5	41.3	37.4	28.5
15	23.6	19.4	42.2	37.4	47.4	45.0	35.8
16	32.4	25.2	51.6	46.9	53.7	53.1	44.3
17	40.4	31.3	61.1	54.8	60.3	59.4	53.1
18	50.1	38.0	68.0	62.6	65.6	66.7	61.6
19	61.1	47.2	76.6	71.6	72.9	74.1	70.1
20	70.7	57.2	83.9	79.2	78.5	80.8	77.7
21	80.7	71.2	89.2	88.2	84.0	87.6	84.6
22	86.9	78.3	92.8	92.7	88.4	91.6	88.6
23	91.0	83.0	95.2	94.7	91.3	94.3	92.2
24	94.3	87.0	97.1	96.4	93.9	95.5	95.3
25	96.4	90.6	98.5	98.1	96.2	96.9	97.9
26	98.7	93.4	99.1	98.5	98.1	98.5	98.9
27	99.2	96.9	99.7	99.3	99.2	99.0	99.7
28	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 12 尺度得点の標準得点化

標準得点	%	愛他性	共感性	論理的 思考性	気働き	社交性	行動力	養育性
1	7	0-12	0-12	0-10	0-9	0-7	0-8	0-9
2	24	13-16	13-17	11-14	10-15	8-13	9-14	10-15
3	38	17-20	18-21	15-19	16-19	14-19	15-19	16-19
4	24	21-24	22-26	20-23	20-23	20-24	20-23	20-24
5	7	25-28	27-28	24-28	24-28	25-28	24-28	25-28

表 13 保育者特性尺度得点にみる特徴

尺度	低得点	高得点
愛他性	自分本位で自己中心的傾向が強い。他者からみれば利己的に見える場合がある。自分の関心のあることは熱心に行うが、他人のことには、自分と利害のある部分以外には関心を示さない。	見返りを求めないで他者の利益になること、他者が喜ぶこと、他者のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向が強い。自分の損得に関係なく相手のために行動する。
共感性	人の感情や気持ちを共有したり、情緒的コミュニケーションができていない。人の気持ちを理解したり、察することができにくく、自己本位な行動をとりやすい。	人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる。情緒的に受容的であり、人との情緒的コミュニケーションが成立しやすい。
論理的思考性	自分の経験や、感情、思い込みや衝動で行動しがちである。物事を論理的に理解することが苦手で、計画的でない。物事をあまり深く考えないといった特徴がある。	多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論や法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向が強い。
気働き	人の気持ちに鈍感で、人の感情や気持ちの機微を感じる事が非常に不得手である。人の様子や表情からその内面を察することがあまりできない。	人の心の状態、気持ちなどを繊細に感じ取り、きめ細やかな気遣いをする傾向が強い。人のちょっとした変化をも気づく繊細な感覚を持っていて、細やかな気づかいができる。
社交性	人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的である。人とかかわることにストレスを感じ易い。人の集まる場所は苦手で、一人でいる方を好む傾向が強い。	人と気軽に交わり、対人関係に積極的に広く人々と交流する傾向が強い。人当たりがよく、気さくで相手を緊張させない。
行動力	物事に消極的である。自分から積極的に物事に取組むことができない。実行力、問題解決能力に乏しい。	物事に自主的、積極的に取り組む。よいと思ったことは実行し、問題解決に能動的である。実行力がある。
養育性	子どもの世話や子どもの成長に役立つとする傾向がほとんどない。幼い者への関心が薄く、その成長を喜ぶといった気持ちが弱い。	子どもに対する思いが強く、子どもの世話をしたり、援助したり、子どものことに労を惜しまない。子どもの成長を喜ぶ気持ちが強い。子どもにとって自分がよい影響を及ぼそうとする傾向が強い。

度得点の5段階標準得点への換算表は表12のとおりである。

保育者特性尺度にみる特性の評価

表13は7つの保育者特性尺度における得点の高低が具体的にどのような行動傾向となって現れる可能性があるかを示したものである。表中、低得点とは標準点1、2が、また高得点は標準点4、5がその範囲に入ると考えてよい。分布の確率から、2よりも1の方が、また4よりも5の方がその傾向が強い。

レーダーチャートに表現された保育者特性プロフィール例

レーダーチャートは円の中心から標準点1、2、・・・、5の順になっている。したがって、中心に近いほど表13の低得点の特徴が強く、周辺は高得点の特徴が強く示される。以下に、いくつかの例を示しプロフィールについて考察する。

図3-1は、愛他性得点が10、共感性得点が8、論理的思考性得点が17、気働き得点が13、社交性得点が12、行動力得点が22、養育性得点が17の個人のレーダーチャート例である。この例は、愛他性、共感性が極めて低く、気働き、社交性も低い。自分本位で自己中心的な傾向が強く、自分に関係することには熱心であるが、他のことには関心を示さない。他者との情緒

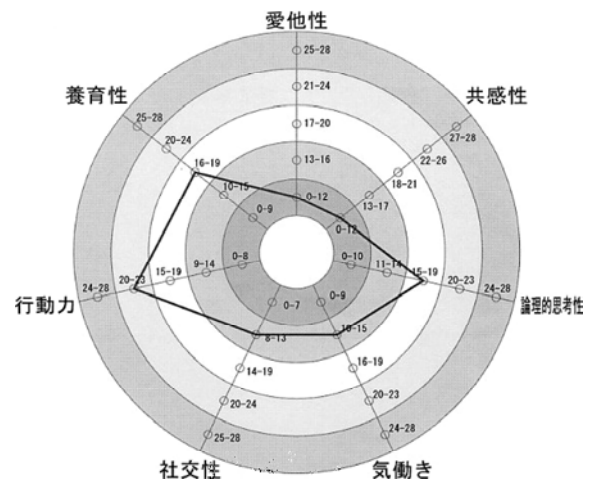


図3-1 個人サンプル例1

的なコミュニケーションがとりにくい。また、人の気持ちに鈍感で、感情や気持ちの機微を感じる事が弱く、人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的である。物事を解ろうとしたり、事実に基づいて物事を判断する傾向は中程度にあるが、これは自分に都合の良いことだけに機能する傾向がある。物事に積極的に取組み、よいと思ったことはすぐ実行する傾向が非常に強いが、これも自己中心的な方向で働く傾向が強い。

図3-2は、愛他性得点が18、共感性得点が24、論

理的思考性得点が10、気働き得点が16、社交性得点が21、行動力得点が25、養育性得点が18のレーダーチャート例である。人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる。情緒的に受容的であり、人との情緒的コミュニケーションが成立しやすい。物事に自主的、積極に取り組む。よいと思ったことは実行し、問題解決に能動的で、実行力がある。人と気軽に交わり、対人関係に積極的で広く人々と交流する傾向が強い。人当たりがよく、気さくで相手を緊張させない。これらの特徴の反面、自分の経験や、感情、思い込みや衝動で行動しがちである。物事を論理的に理解することが苦手で、計画的でない。物事をあまり深く考えないといった傾向がある。

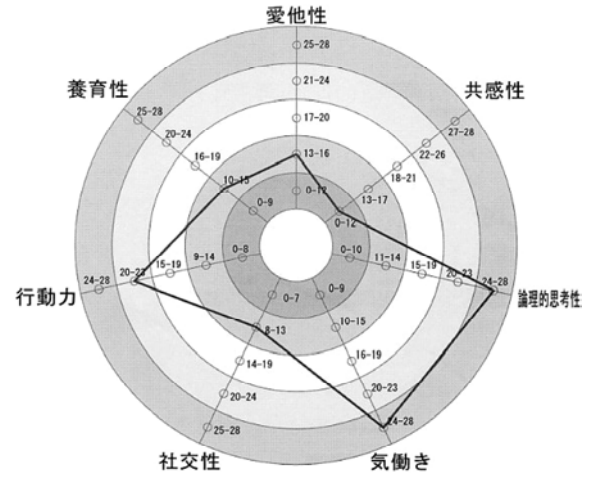


図3-3 個人サンプル例3

が14、行動力得点が8、養育性得点が17のレーダーチャート例である。この例は、見返りを求めないで他者の利益になること、他者が喜ぶこと、他者のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向が強い。自分の損得に関係なく相手のために行動する傾向が強い。多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論や法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向が強い。しかし行動力、実行力が極めて乏しい。

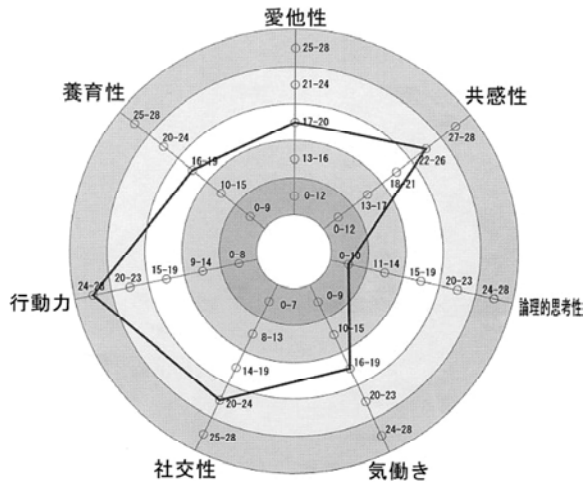


図3-2 個人サンプル例2

図3-3は、愛他性得点が14、共感性得点が8、論理的思考性得点が27、気働き得点が24、社交性得点が10、行動力得点が21、養育性得点が15のレーダーチャート例である。多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論や法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向が強い。人の心の状態、気持ちなどを繊細に感じ取り、きめ細やかな気遣いをする傾向が強い。物事に自主的、積極的に取り組む。よいと思ったことは実行し、問題解決に能動的で実行力がある。しかし、共感性が極めて乏しく、愛他性、養育性も乏しい。すなわち、情緒的受容性に乏しい。人の気持ちや感情を受け入れたり、配慮することに乏しく理屈や論理だけで行動する傾向が極めて強い。他者のことを知的に理解することができるが、情緒的な側面が伴わない行動となる傾向が強い。

図3-4は、愛他性得点が21、共感性得点が21、論理的思考性得点が20、気働き得点が13、社交性得点

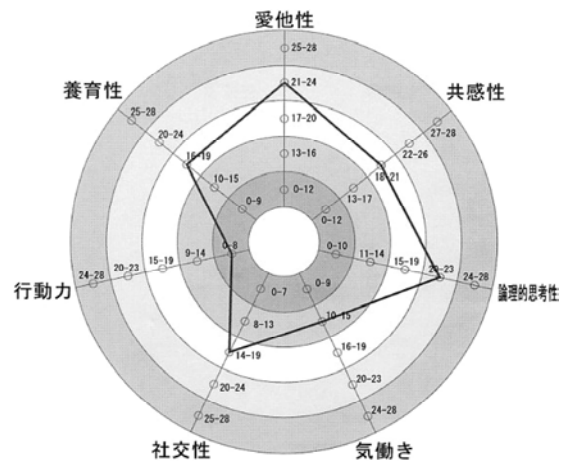


図3-4 個人サンプル例4

図3-5は、愛他性得点が28、共感性得点が28、論理的思考性得点が13、気働き得点が25、社交性得点が22、行動力得点が25、養育性得点が27のレーダーチャート例である。愛他性、共感性、気働き、社交性、行動力、養育性特性が極めて強い反面論理的思考性に極めて乏しい例である。これは、特定の特性が強すぎると人格構造的なアンバランスが生じる例といえよう。すなわち、愛他性、共感性が満点の28点、養育性が

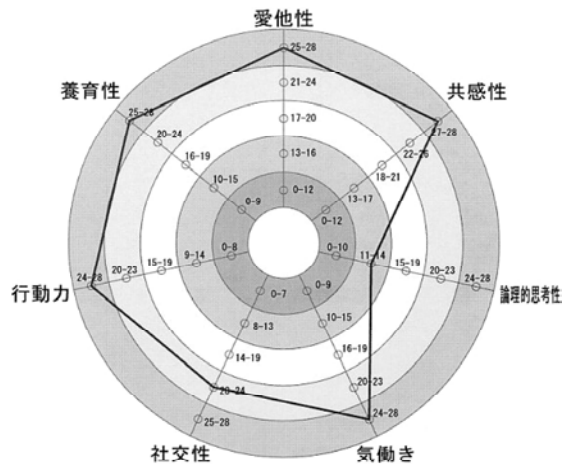


図 3-5 個人サンプル例 5

27 点と、情緒的反応に関する特性が非常に強く、論理的思考性が標準点で 2 点と非常に低い。さらに、行動力が標準点で 5 と非常に高いことから情緒的反応がすぐ行動へと結びつく傾向がうかがえる。

【考察】

本研究では藤村（2010、2011）により構成された保育者特性尺度の標準化を行い、個人の尺度得点を 5 段階の標準点に換算してレーダーチャートに表現し、個人の特性プロフィールを診断可能ならしめることを目的とした。これらは図 3-1～図 3-5 に例として示した。個人の保育者特性プロフィールの特徴が視覚的に把握することが可能になった。このことの論拠は表 2-1～表 8-2 にある。論理的思考性尺度については、全サンプルの平均値差が一要因分散分析結果では、 F 値の生起確率が 0.069 であり、検定論的には「有意差がない」という結論である。すなわち、帰無仮説 $\mu_1 = \mu_2 = \dots = \mu_6$ が棄却されなかった。しかし、 F 値の生起確率が 0.069 であることから、2 つのサンプルの組合せによる多重比較を試みたところ、ケアマネージャと他の 5 つのサンプルとの全ての組合せにおいて有意差がみられた。このような結果の違いは用いる検定方

法の数理論のの違いにある。実用的な立場からは、2 サンプル間の検定にしる、サンプル間にその属性に伴う有意な平均値差が認識されるという事実は否定できないものといえる。また、本尺度が人格構造的に重要な機能を持つことが個人のレーダーチャート例からも明らかである。今後のさらなる本インベントリィの妥当性研究のなかで各尺度のもつ心理学的な機能が明らかになるものといえる。

【引用文献】

- 浅見 均 (2000). 保育者の資質に関する一考察 青山学院短期大学紀要、54、121-150.
- 江田美代子 (2007). 保育士に求められる資質能力に関する調査研究 宮崎女子短期大学、34、31-46.
- 藤村和久 (2010). 保育士、幼稚園教諭を目指す学生のための保育者適性尺度の構成 大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要、9、129-143.
- 藤村和久 (2011). 保育者特性インベントリィの妥当化 I 大阪樟蔭女子大学研究紀要、1、86-96.
- 井澤永修・永房典之・星 道子 (2007). 保育者適性尺度作成の試み 東京文化短期大学紀要、24、5-10.
- McDonald, R. P. (1999). *Test Theory: A Unified Treatment*. University of Illinois at Urbana-Champaign.
- 永房典之・井澤永修・岩切信一郎・星 道子 (2008). 保育者適性に関する研究 (2) -Big Five 性格と個人・社会志向性からの検討- 東京文化短期大学紀要、25、1-3.
- 豊田秀樹 (1998). 共分散構造分析-構造方程式モデリング- [入門編] 朝倉書店.
- 豊田秀樹編著 (2007). 共分散構造分析-構造方程式モデリング- [Amos 編] 東京図書.
- 柳井春夫 (1975). 進路選択と適性 -大学・職業はこうして決める- 日経新書.

The Standardizing of the Nursery Trait Inventory

Faculty of Psychology, Department of Developmental and Educational Psychology
Kazuhisa FUJIMURA

Abstract

This paper standardizes the Nursery Trait Inventory constructed by Fujimura (2010, 2011) and makes it possible to draw individual nursery trait profiles as a ladder chart. To that end, the seven nursery trait scale scores are transformed into a five-point standard scale. In this manner, a visual assessment of the individual profiles can be made.

Keywords: nursery, nursery trait, aptitude, aptitude assessment, questionnaire